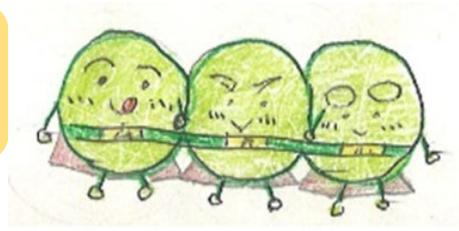


R5年度 接続期カリキュラム研究推進 山元地区 活動報告（1年目）  
子どもたちの育ちと学びをつなげる接続期のカリキュラムづくり  
～つながって楽しい!つながって安心!いっしょに歩こう!虹の架け橋～



山元小学校



竹之丸保育園



# 目次

- 1 保育参観・授業参観の実施について
- 2 子どもたちの交流について
- 3 今年度の成果と課題、来年度に向けて
- 4 接続期を意識したその他の取組について



# 1年目 互いに理解を深め、子ども観の共有 ～参観する前のイメージ～

どんな体験や  
経験を積んで  
入学してきて  
いるのかな

どのように、個  
の遊びが集団  
の遊びに広がっ  
ていくのかな

小学校生活の  
様子を知りたい  
入学して切り替  
えられるかな

交流の仕方を  
いろいろ考える  
チャンス!

年長児の園での生活を  
見て、スタカリの見直し  
をしたいな

小学校は、先生に教わって  
いる時間が多いイメージ  
実際はどうなのかな



小学校教諭

**実際の保育や授業を  
参観する機会を多くもちましょう!**



保育士

# 1年目 互いに理解を深め、子ども観の共有 ～授業参観の実施～

## 授業参観の実施

### 相互理解を深める



小学校

日時	内容
6月22日	らいおん組 稲の成長
7月31日	らいおん組 水族館遊び
10月7日	保育園運動会
1月19日	らいおん組 草木染め



保育園

日時	内容
5月12日	1年生 授業参観
5月20日	小学校運動会
5月26日	2年生活科 野菜栽培
6月16日	1年生生活科 水遊び 2年生活科 ヤゴ飼育
9月15日	1年生活科 水耕栽培
9月29日	1年 授業参観
11月11日	1年生活科 水耕栽培・家族 2年生活科 おもちゃづくり・まち探検
2月9日	1年 授業参観

日々の保育や授業に生かす

スタートカリキュラムの改善

接続期カリキュラム作成の見通しをもつ

# 1年目 互いに理解を深め、子ども観の共有 ～参観後の気付き～

やらせることばかりを考えていた自分を反省。**環境を整えることを意識**するように。

園でも対話の時間を大切にしている。園児の**豊かな言葉での表現に感動**。

こんなにも探究的な活動を体験しているとは思ってもみなかった。**生活科の授業とのつながりがたくさんある!!**

小学校教諭



小学校の教育活動でも、**子どもがやりたいことを大切にしている**と、**園で話題に!**

小学校の先生も**環境構成を工夫し**、子どもたちが**やりたいことがすぐに実現**できるようになっていた。

**小学校職員とのつながりが**でき、連絡を取り合える。進学を迎える保護者や子どもの不安に**すぐに対応**できる。

保育士

# 合同研修会の実施

## 〈参加者〉

- ・山元小全教員
- ・竹之丸保育園職員
- ・近隣校の小学校教員
- ・接続期カリキュラムに興味のある市内の教員



低学年担任

## 〈講師〉

國學院大学 准教授  
吉永安里 先生

## 〈助言者〉

横浜市子ども青少年局

## 〈内容〉

架け橋プログラムデザインシートを活用して、子ども観の共有

The collage features several key elements:

- Top Header:** '架け橋カリキュラム デザインシート' (Bridge Curriculum Design Sheet) with the slogan '架け橋期 Let's talk about our 架け橋期'.
- Left Side:** '中高学年担任' (Upper/Middle School Teacher) and '児童支援専任' (Child Support Specialist) labels.
- Center:** '架け橋カリキュラム デザインシート' and '幼児期の終わりまでに 幼児期の子どもの姿' (By the end of the preschool period, the appearance of preschool children).
- Right Side:** '児童支援専任' (Child Support Specialist) label and a table titled '知 徳 体 公 開' (Knowledge, Virtue, Body, Public, Open) with a 9-year plan for child development.
- Bottom:** '水あそび' (Water play), '畑の耕し' (Tilling the field), '夏の野菜の栽培' (Summer vegetable cultivation), and '子どものやる気' (Child's motivation).
- Handwritten Notes:** 'まずは 育てたい! 子どもの姿を共有しよう!' (First, let's share the appearance of children we want to raise!), '未知なことや分からないことを自分なりのペースで探求し続ける' (Continue to explore unknown things at your own pace), '探究的な学び' (Inquiry-based learning), '場の設定 学校以外の 広ーい所!!' (Setting the scene: a wide place outside school!!), '道具の豊富さ' (Abundance of tools), '子どもの育成' (Child development), '子どものやる気' (Child's motivation), and '子ども観の共有' (Sharing of child views).



保育士

この地区の子どものよさや強みの共有  
子どもを生かす手立ての共有

# 1年目 互いに理解を深め、子ども観の共有 ～子どもの交流計画～

交流の計画・見通し

5月  
職員顔合わせ・打ち合わせ

6月～  
2年生とらいおん組との交流

9月～  
1年生とらいおん組との交流

3月まで継続的に行っていく

出会い・活動の模索

公園はお散歩コースです。



私たちがよく利用しています。



今は、カブトムシに夢中です。



山元小で捕まえられます。



根岸森林公園

山元小



自由遊び

カブトムシ捕り

# 1年目 互いに理解を深め、子ども観の共有 ～子どもの交流実施～

## 交流の実際（6月） 交流経験のある2年生と年長児との交流



森林公園を出会いの場に設定し、自由遊びの時間を取りました。子ども同士だけでなく、先生と子どもの関わりも見られました。帰りは、皆でハイタッチや手を振り、次に会う約束をしました。



出会いの場の設定・心をほぐす時間



前回の交流で、年長児が「山元小に行ってみたい。カブトムシを捕まいたい。」と言っていたのを聞いた2年生は、年長児を学校に招き、一緒にカブトムシトラップをしかけました。



年長児の思いを生かした活動

# 1年目 互いに理解を深め、子ども観の共有 ～子どもの交流実施～

## 交流の実際（7月） ○○したい!と意思を高める相互の交流



前は、外での活動だったので、年長児の次のリクエストは「学校の中に入れてみたい!」でした。園に帰ってから、「○○に行ったんだ。」「○○を見たよ。」と伝え合っている姿が見られたそうです。



カブトムシトラップで捕まえたコクワガタのことを知らせる2年生。その後は、園の玩具で遊んだり、虫や夏野菜等の観察をしたりして楽しみました。野菜を育てているという共通点を見つけました。



「もっと○○したい!」が生まれる活動

小学生が園を訪問し、園や年長児のことを知る活動

# 1年目 互いに理解を深め、子ども観の共有 ～子どもの交流実施～

## 交流の実際（8・9月） 1年生と年長児の交流



2年生と年長児が何度か交流をしていると、1年生が手を振って年長児を出迎えるようになりました。また、1年担任は意図的に園での遊びとつながる水遊びの授業場面を年長児が見られるように、授業時間を調整し、関わるきっかけをつくりました。

2年生から1年生へ



農園の空き地に「竹之丸保育園畑」を作り、年長さんと一緒に活動できる環境を整えました。一緒に種まき・苗植えを行いました。



園でも小学校でも夏野菜でポップコーンを育てていました。前回種まきをした際、ポップコーンの話題になりパーティーをすることになりました。

共通の経験、  
一緒に楽しむことを大切に活動



# 1年目 互いに理解を深め、子ども観の共有 ～子どもの交流実施～

## 交流の実際（10月） みんなが名前を呼び合える友達のような関係



前回、園まで初めて歩いた1年生は、道のりの大変さを実感し、次の交流日には、年長児を園まで迎えに行くことにしました。自分たちがたてわり活動でやって楽しかった遊びを紹介して、一緒に遊びました。



「〇〇ちゃん」「〇〇くん」と一緒に楽しみたいと相手意識をもった活動



2年生が生活科でつくったおもちゃで、年長児と遊びたいという思いをもちました。わくわくおもちゃ会に年長児を招待しました。最後に感想を伝え合う場では、年長児の手がたくさん挙がっていました。



教科学習と結び付けた活動

# 1年目 互いに理解を深め、子ども観の共有 ～子どもの交流実施～

交流の実際（11・12月）

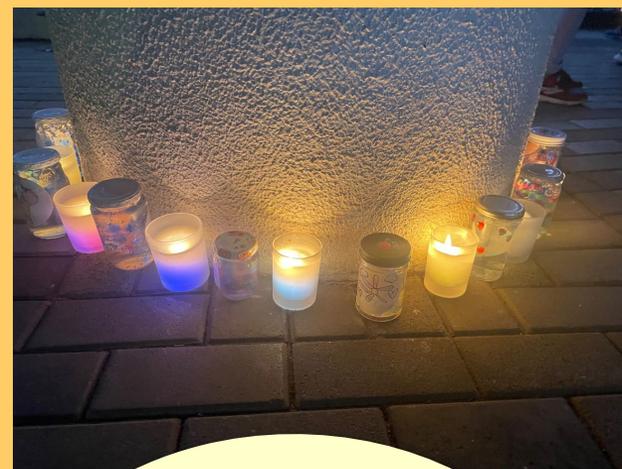
地域のイベントに参加



森林公園のイベントに参加することになった2年生。自分たちが考えた「水中アート」を年長児にも作ってもらって、イベントのときに飾りたいという思いをもち、一緒に作品づくりを行いました。



ものづくりを通して相互理解を深める活動



イベント当日は、日曜日でしたが、年長児や園の先生方も来てくれました。自分の作品を見つけて、保護者に教えている年長児の姿も見られました。先生方が、2年生の活動を価値付けてくれて嬉しそうでした。



地域の方々と関わる活動

# 1年目 互いに理解を深め、子ども観の共有 ～子どもの交流実施～

## 交流の実際（1月） 年明けもスムーズな交流の継続



竹之丸保育園畑の野菜が大成し、1年生が収穫のお手伝いをしました。小学校の畑の野菜の大きさに驚いていました。持ち帰った新鮮な野菜は、次の日に自分たちで調理を食べたそうです。

食育につながる活動



収穫のとき、「もっと学校探検をしたい!」と年長児の思いを聞いた1年生。園の先生は、校内の様子を写真に撮り、園に帰ってからも探検を振り返ったり、共有したりできるよう環境を整えたそうです。

年長児の思いを生かした活動

# 1年目 互いに理解を深め、子ども観の共有 ～子どもの交流実施～

## 交流の実際（2月）「はじめまして」の他園の年長さんとの交流



「もっと知りたい!」と年長児の思いが高まってきた2月。校長室にいる生き物や3年生以上の児童との出会いがありました。小学校の児童にとっても、年長児の存在がだんだんと当たり前!



学校のみみんなを巻き込んで  
年長児と関わる活動



竹之丸保育園との交流経験を生かして、他の近隣園との交流もスムーズに行うことができました。「どうしたら、なかよしになれるかな」と考え、活動を決めている1年生の姿がありました。



年長児の立場に立って考えた活動

# 1年目 互いに理解を深め、子ども観の共有 ～交流のまとめ～

## 交流の今後の予定（3月）

- ◆卒園式の歌詞づくり（山元小との交流を歌詞に）
- ◆卒園式に向けて、1・2年生でサプライズ動画作成
- ◆卒園式後、年長さんが来校し、  
1・2年生の前で卒園式の歌披露



### 進級・進学

## 来年度 2年目（4月）

- ◆職員間で、2年生と年長児の交流を計画
- ◆子どもの思いを見とり、活動内容を決める

# 成果

- それぞれの職員が、それぞれの子どもの思いをみとりこまめに連絡を取り合いながら、次の活動の日時や内容を決めたことで、無理なく継続的な交流ができた。
- 交流経験を生かして、2年生から交流をスタートすることで早い時期からの交流が可能になり、年長児にとっても「小学校」と言う場所がより身近になった。
- 子ども同士、職員同士、子どもと職員が互いに名前を呼び合えるほど、温かなよい関係を築くことができた。
- 小学校の休み時間に交流の時間を合わせたことで、様々な学年の児童と年長児が関わる機会をつくることができた。園の先生にとっても、中高学年の様子や卒園児の成長が見られてよい機会であった。
- 実際の保育や授業を参観することで、子どもの育ちの様子や扱っている教材のこと、活動を支える保育士や教師の支援を知ることができた。互いに刺激を受け、日頃の保育や授業づくり、子どもへの支援の仕方について、見直し改善することができた。
- 小学校が所有しているポップコーンメーカーを貸し出したことで、園でいろいろな味のポップコーンを楽しむことができた。
- 日頃から、子どもの思いや探究的（探求的）な活動を大切にしていることや子どもの育ちを信じて待つことの大切さ等を両職員で再確認し、共有することができた。
- 夏の合同研修会で、近隣園・近隣校にも声をかけ、接続期や架け橋プログラムについて様々な立場の職員を巻き込んで学ぶ機会をつくることができた。また、そのときに、この地域の子どものよさや強みを共有できたことは、その後の交流の軸となった。

## 課題・来年度に向けて

- ・接続期や幼保小交流に関わる職員が限定的になってしまったり、接続期に関わる情報の周知が十分に行えずに1年が過ぎてしまったりした。  
⇒園全体・学校全体で取り組んでいく意識を高められるように、担当者は取組の様子や研修等の情報の周知を定期的に行っていく。そうすることで、幼保小交流のよさの共有ができ、次年度への継続をスムーズに行えるようになるのではないか。
- ・保育園での年長児が行っている活動が想像以上に探究的（探求的）で深い学びにつながっていることに気付かされた。そのため、現行のスタートカリキュラムの活動や環境構成について再考する必要があると感じた。  
⇒子どもたちの探究心（探求心）を大切にしたい教科横断的な活動を取り入れた「やまもタイム（授業時数以外の教育活動）」の再構築をする。園での環境構成や対話のやり方を進んで取り入れていく。
- ・予算の使い道について、両職員で相談をして執行したが、もっと時間を取って話し合い、購入するもの等決めることで、接続期カリキュラムの研究が深まるのではと感じた。  
⇒園での遊びを通じた仲間づくりの実践をもとに、園と小学校でどんな玩具を共通で置いたらよいか、遊びの場の設定をどうするか等、具体的にイメージして話し合いをして、予算で購入するものを決めていく。

# 1年目 互いに理解を深め、子ども観の共有 ～その他の取組～

## 接続期を意識した その他の取組について

- ◆重点研・研究発表会等の1年生指導案に、園での経験を子どもに聞いたり、園に電話取材したりして記載している
- ◆園の年間指導計画や指導案にも、幼保小交流についての記述欄が設けられている
- ◆近隣園を招いて行っている幼保小交流会（2月）を行う際、山元小入学予定者にメール配信を行い、近隣園に通っていなくても保護者同伴で参加できるようにしている
- ◆新1年生保護者説明会と、同日時に入学体験会を行い、年長児が学校の雰囲気慣れたり、職員と交流したりできるようにしている



↑ 重点研・研究発表会の振り返り

↓ 入学体験会



Ⅳ期（1月～3月）より一部抜粋

（情緒）・達成感や自信をもって過ごすことで充実感を味わえるようにし、さまざまな感情に共感しながら安定して過ごせるようにする。**・小学校の交流を通して知ることができた学校生活について共有し、安心して就学を迎えられるようにする。**

（環境）・小学校への関心が高まり、入学への期待が膨らむ。今までの関わりを振り返る掲示等を見ながら楽しむにする。**・冬ならではの事象に興味を持ち、遊びに取り入れたり調べたりすることを楽しむ。**

↑ 5歳児 年間指導計画

山元小は、明るい子たちが多いですね。娘も楽しそうで、安心しました。



交流会に参加した保護者 ↑